

平田 歩

3歳よりピアノを始め、岐阜県立加納高校音楽科桐朋学園大学を卒業後、チャイコフスキー記念国立スクワ音楽院準備科を経て本科(修士課程)に首席で入学、ロシア国家資格を取得し卒業。これまでにクラクフ室内楽オーケストラと共演、リッツアルド・ビーノ国際音楽コンクールにて第4位入賞(2018)、チッター・ディ・ヴィッラフランカ国際音楽コンクールにて第1位受賞(2019)他国内外のコンクールで入賞。

これまでにピアノを上野栄美子、朴久玲、エリソ・ヴィルサラゼ、ヤコブ・カチネルソンの各氏に、室内楽をセルゲイ・ヴォロノフ、歌曲伴奏法をミハイル・ニケシチェフの各氏に師事。また、これまでにラフマニノフ・ザール、マーリー・ザール、スクリャービン美術館、ルービンシュタイン美術館、オルガン・ホール、中央音楽学校大ホール、文化センター科学者の家等ロシア国内主要ホールを始め、ショパンアカデミー(ポーランド)、モーツァルテウム大学(オーストリア)、ポンティーノ音楽祭(イタリア)など近年はヨーロッパでも多く演奏、各地で好評を博す。

2015年から5年間に渡りモスクワ音楽院にて行われたニューイヤー・コンサートに選抜され演奏。2020年にチャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院を卒業後、ソロを中心に室内楽、歌手、オーケストラとの共演など国内外にて幅広く活動中。同年には岐阜県教育文化財団より招聘を受け、コロナ再始動プロジェクトに参加。ソロリサイタルでプロジェクトの最後を飾る。

2021年に開催したサラマンカホールでのリサイタルはCCNテレビにて放送される。

2023年にはオペラトレーニングプログラムLyric Opera Studio Weimar(ドイツ)にコレペティートル(稽古ピアニスト)として参加、公演ではモーツァルトのオペラ『魔笛』を演奏。

